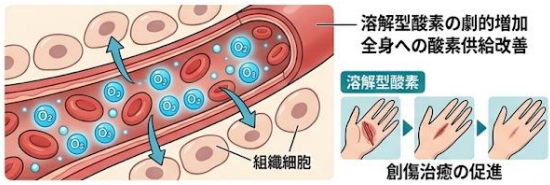


高気圧酸素治療の適応 >
治療の流れ >
治療上の注意点（耳抜きについて） >
治療上の注意点（持ち物について） >
安全な治療を行うために >

当院では、SECHRIST社製　酸素加圧式第1種治療装置を使用しています。
「日本高気圧潜水医学会専門技師」が在勤しており、装置の安全な運転操作・患者様が安心して治療できるように努めています。

高気圧酸素治療とは

気圧の高い環境下で酸素を吸入することによって、病気や創傷の改善を図る治療方法です。
気圧を高めた治療装置内では、通常大気圧の約15倍もの酸素を血液中に取り込ませることが可能です。
高い気圧で酸素投与を行うことにより増えた「溶解型酸素」が治療効果を発揮します。
本治療が有効な疾患は多数あり、当院では適応のある患者様に対して積極的に実施しています。



治療効果

- 血液中の溶解型酸素量の増加により、生体内の循環障害・低酸素状態の改善・創傷治癒の促進
- 酸素の抗菌作用を利用し、細菌の発育を阻害する抗菌効果
- 生体内にできた気体を圧縮・再溶解することによる末梢循環の改善効果
- 組織の腫れを軽減させる効果



耳抜きの必要性

中耳腔(耳の奥の空洞)、副鼻腔、肺など空気を含んだ臓器は、圧力の変化によって中の空気が膨張したり、収縮したりします。特に中耳腔は密閉された状態ですので、高気圧酸素治療では、気圧を上げると同時に耳が詰まるような感覚や圧迫されるような感覚が生じます。そのまま我慢し続けると耳に強い痛み(気圧外傷)になるので、それを予防するために耳抜きが重要となってきます。

耳抜きの仕方

1. 唾液を飲み込む
   嚥下の動作によって口蓋帆帳筋を収縮させて耳管を開放する方法。鼻をつまんで唾液を飲み込む(トゥインビー法)。
2. 口を大きく開ける・あくびをする
   あくびや顎を動かす動作によって口蓋帆帳筋を収縮させて耳管を開放する方法。
3. 鼻をつまんで口呼吸
   鼻をつまんで軽く鼻をかむ要領で空気を送る。力入れて息みすぎると内耳や鼓膜を痛めるのでやさしく鼻をかむように空気を送ってください



治療上の注意点

持ち物について

通常の5倍の酸素を使用し治療を行うため、装置内は発火の可能性があるものや装置を傷つける可能性のあるものは持ち込めません。

マッチ、ライター、たばこなどの引火性のもの



白金カイロ、使い捨てカイロなど熱が発生するもの



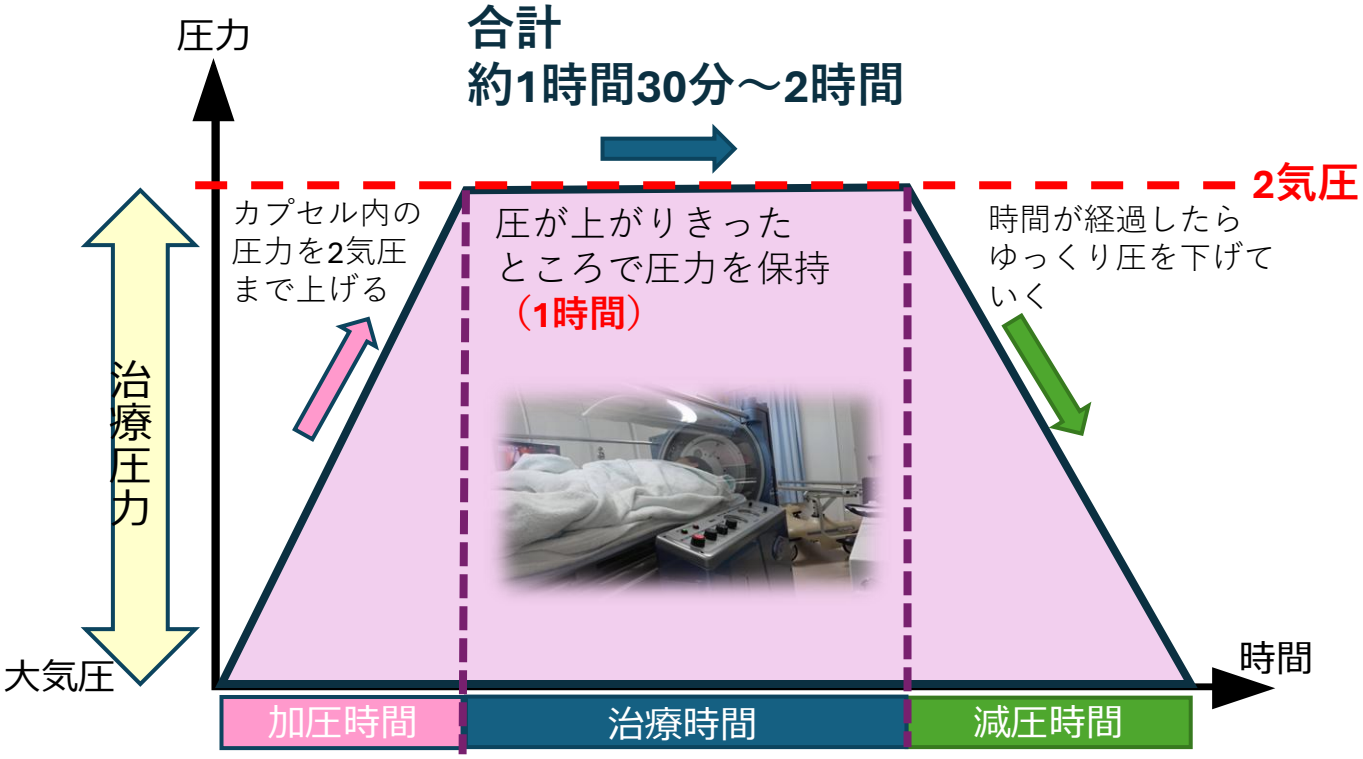
PC、携帯電話、電子機器、スマートフォン、補聴器など



ご不明な点はスタッフまでお尋ねください

高気圧酸素治療の流れ

1. 綿100%素材の専用治療着に着替えていただきます。
2. 担当スタッフが、各種チェック（体調の確認、所持品、衣類）を行います。
3. 治療時間は、約1時間30分～2時間となります。途中でトイレに行くことは出来ませんので治療前にトイレをすませておいてください。
4. 治療装置内に入り治療をはじめます。開始してしばらくすると耳が詰まる感じがしてくるので耳抜きを行ってください。何回も耳が詰まる感じがするので耳抜きを繰り返し行ってください。
5. 耳抜きを行っても耳の痛みが良くならない場合や身体に異常が現れる場合には、担当スタッフが付いてますので我慢せずに気軽にお声掛けください。治療中は備え付けのテレビを観たりしてなるべくリラックスしてお過ごしください。



高気圧酸素治療への適応

高気圧酸素治療は以下のような様々な疾患に適応されております。治療効果については個人差はありますが、治療を継続することでその効果は維持されます。
治療は通常1日1回です。治療回数（数回～数十回）は、適応疾患や患者様の症状によって担当医が判断します。

- ガス塞栓症または減圧症
- 一酸化炭素中毒その他のガス中毒
- 重症軟部組織感染症（ガス壊疽，壊死性筋膜炎）または頭蓋内膿瘍
- 急性外傷性血流障害（挫滅症候群またはコンパートメント症候群）
- 末梢血管障害 （イ） 網膜動脈閉塞症 （ロ） 難治性潰瘍（糖尿病，動脈または静脈性血流障害、脱疽等）
- 放射線障害（下顎骨を含めた頭頸部，下部消化管，膀胱，脳）
- 骨髄炎
- 皮膚移植
- 熱傷または凍傷
- 突発性難聴
- 急性心筋虚血
- 放射線または抗癌剤と併用される悪性腫瘍（頭頸部がん，子宮頸がん，悪性脳腫瘍）
- 腸閉塞
- 低酸素脳症
- 脊髄・神経疾患
- 急性頭部外傷（開頭術後の脳浮腫）
- 脳梗塞



高気圧酸素治療を受けられる方へ
～安全な治療のための「ボディチェック（持ち物確認）」について～

高気圧酸素治療は、高い酸素濃度の部屋（装置）の中で行うため、「火気」「静電気」「圧力に弱いもの」の持ち込みが厳密に制限されています。
患者様に安全かつ安心して治療を受けていただくため、当院では治療前に毎回、看護スタッフによる「ボディチェック（持ち物・衣類等の確認）」を実施しております。

